

田上校区 まちづくりプラン

第2期（令和7年度～11年度）



心ひびきあい
きずな深まる田上校区



田上校区
まちづくり協議会

目 次

1 はじめに	
(1) あいさつ	・・・ 2
(2) 第2期まちづくりプランについて	
2 校区の概要	
(1) 校区について	・・・ 3
(2) 校区の主な施設	・・・ 4
(3) 校区（まち歩き）マップ	・・・ 5
(4) 校区の人口	・・・ 6
3 わたしたちがこれから目指すのは	
(1) 協議会の運営	・・・ 8
(2) 協議会の組織	・・・ 9
4 第1期プラン評価と第2期プラン活動計画	・・・ 10

1 はじめに

(1) あいさつ



田上校区は、歴史と伝統のある田上小学校を中心に、住民同士のふれあいも盛んで、町内会をはじめとした地域の様々なコミュニティ組織も協力して、住みよい地域を築いてまいりました。反面、少子高齢化や核家族化が進行する中で、市民のライフスタイルや価値観も多様化し、地域の活動への参加者が減るなど、人と人、人と地域との絆が弱まりつつあるとも言われております。また、最近各地で憂慮すべき大震災や風水害が起き、非常に残酷な現実を目の当たりにしました。そこから、自分たちで出来る日頃の備えと、人と人との「絆」の大切さ感じました。

このようなことから、わか校区においては、お互いに支え合う地域の絆をさらに強固なものとするため、平成30年4月から「田上校区まちづくり協議会」をスタートさせました。「絆」は、田上校区に住む一人一人がまちづくりを考え、参加し協力していくことにより深まっていくものと私は信じます。

今回、このようなことから継続的な地域づくりの活動指針となる「第2期田上まちづくりプラン」を作成しました。今後とも、校区の更なる飛躍と発展に、校区の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

田上校区まちづくり協議会

会長 藤久保 博文

(2) 第2期まちづくりプランについて

地域の活性化には、町内会をはじめとした多くの関係団体が連携しながら、地域のことをよく知る私たち自身が主体となって地域コミュニティ活動に取り組んでいくことが何より大切です。

そこで、自分たちの住む地域をどんなまちにしていきたいか将来像を思い描き、地域課題の解決や地域資源の活用などに取組んでいくための具体的な計画が必要です。地域主体のまちづくりを基本理念としながら、第1期まちづくりプランで積み上げてきた実績を踏まえ、この第2期まちづくりプランを今後の指針として取り組んでまいります。



昭和30年ごろの上地区周辺



令和6年度 校区運動会

2 校区の概要

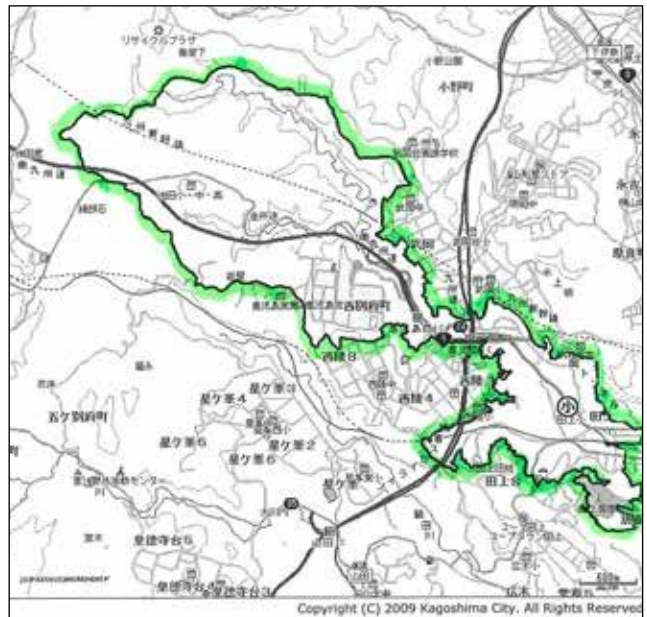
(1) 校区について

田上校区は、鹿児島市街地から南西方向の、田上川（新川）の上流・中流地域に位置し、田上一丁目から八丁目、西別府町及び小野町の一部から形成されています。

田畑が中心だった校区は、鹿児島市のベッドタウンとして発展するとともに、周辺の山は団地に造成され、高速道路のインターチェンジがで
き交通の要衝となっています。また、九州新幹線の開通とともに、周辺は大きく開発され、都市化が進み、その姿は変わってきています。

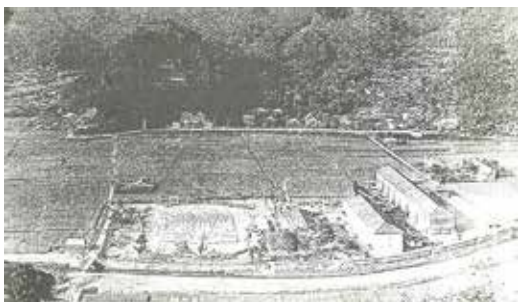
藩政の頃は、武村・田上村・西別府村に分かれており、藩主島津氏によって治められ、明治22年4月の町村制の実施により、3村名の頭文字をとって「西武田村」となっています。その後昭和9年に鹿児島市に合併編入し、「田上町」、「西別府町」になりました。

田上小学校は、明治9年に薩摩国鹿児島郡

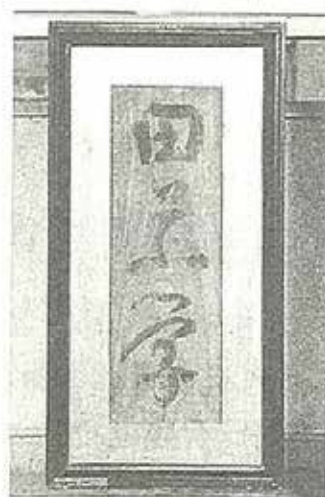


田上村鍋ヶ宇都（現在の土地区）に創立され、「田上小学」と称し、西郷南洲翁によって揮毫された門札が学校に保管されています。明治21年5月に現在地に移転して、大正3年からは鹿児島大学教育学部代用附属校としての歴史もあります。周辺は、のどかな田園風景でありました。

昭和47年度には、児童数が2千人を越える時期もありましたが、



昭和25年ごろの田上小周辺



西郷南洲翁揮毫門札
(田上小蔵)



西武田村誌
(田上小蔵)

昭和48・49年度にかけて広木小へ約200人、さらに、昭和53年度には西陵小へ約550人が分離して現在に至っています。

(2) 校区の主な施設



田上小学校



武中学校



武小学校



西陵中学校



池田小・中学校



田上福祉館



武・田上公民館



文化工芸村



田上幼稚園



ひばり幼稚園



田上保育園



かごしまショコラ保育園



環境情報専門学校



鹿児島医療福祉専門学校



(3) 校区（まち歩き）マップ



① 田上川（新川）



② 玉川井堰記念碑



③ 大典記念碑



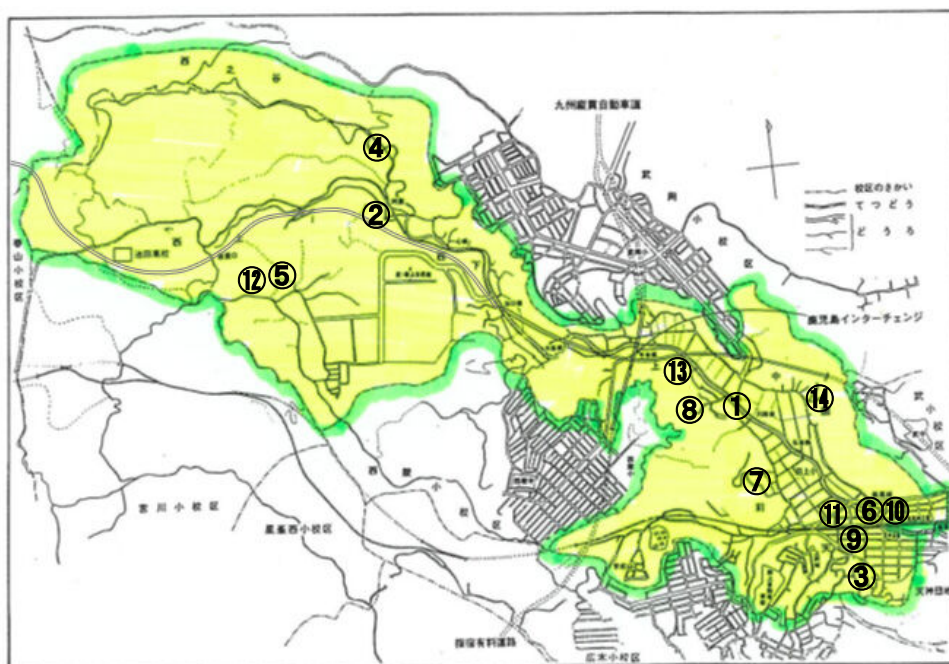
④ 西の谷ダム



⑤ 西郷野屋敷跡



⑥ 田上水車館機械場跡



⑦ 空襲犠牲者慰霊碑
毘沙門天（前区）



⑧ 田上小学校跡



⑨ 天神公園



⑩ 美尾崎公園



⑪ 田上公園



⑫ 諏訪神社
（西別府町上）



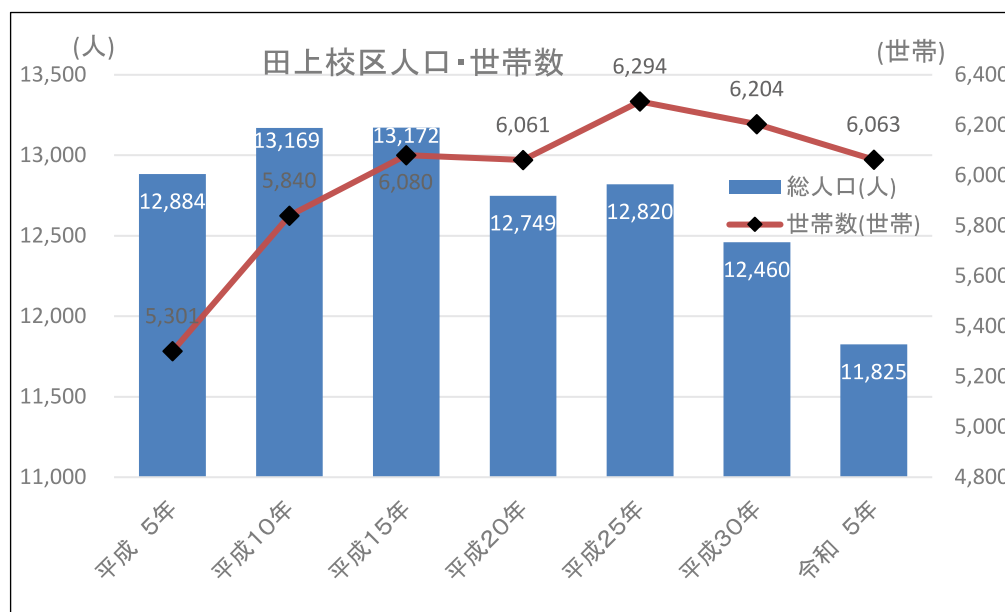
⑬ 吉満神社（上区）



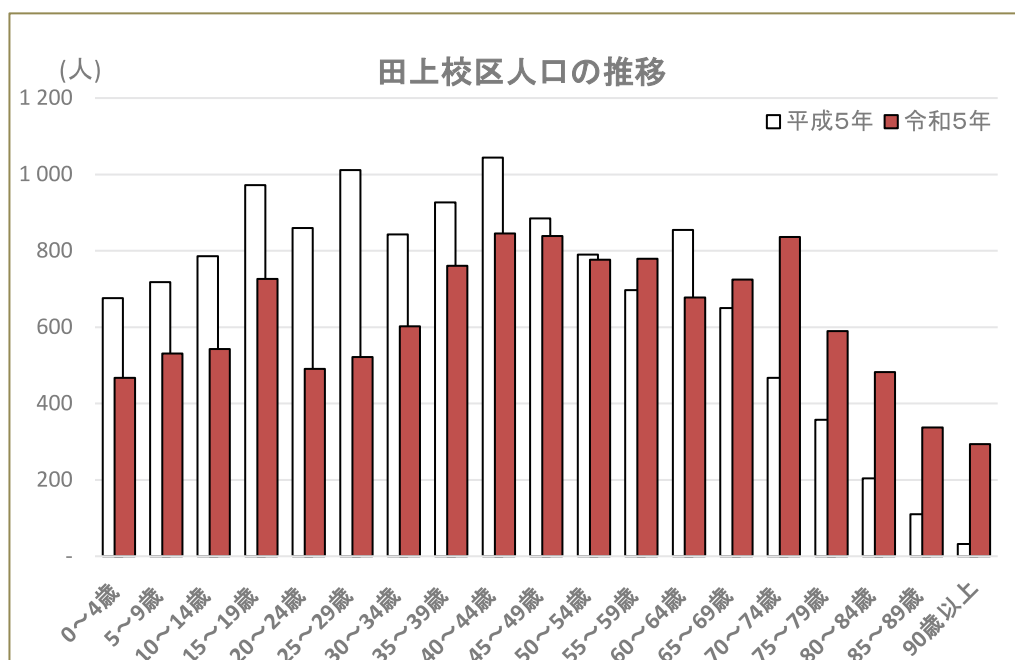
⑭ 田上八幡神社
（中園）

(4) 校区の人口

校区の人口は、平成15年の約1万3千人をピークに現在の約1万2千人と減少しており、その傾向は今後も続くと思われます。また世帯数は一時、増える傾向にありましたが、人口と同じように減少傾向にあります。

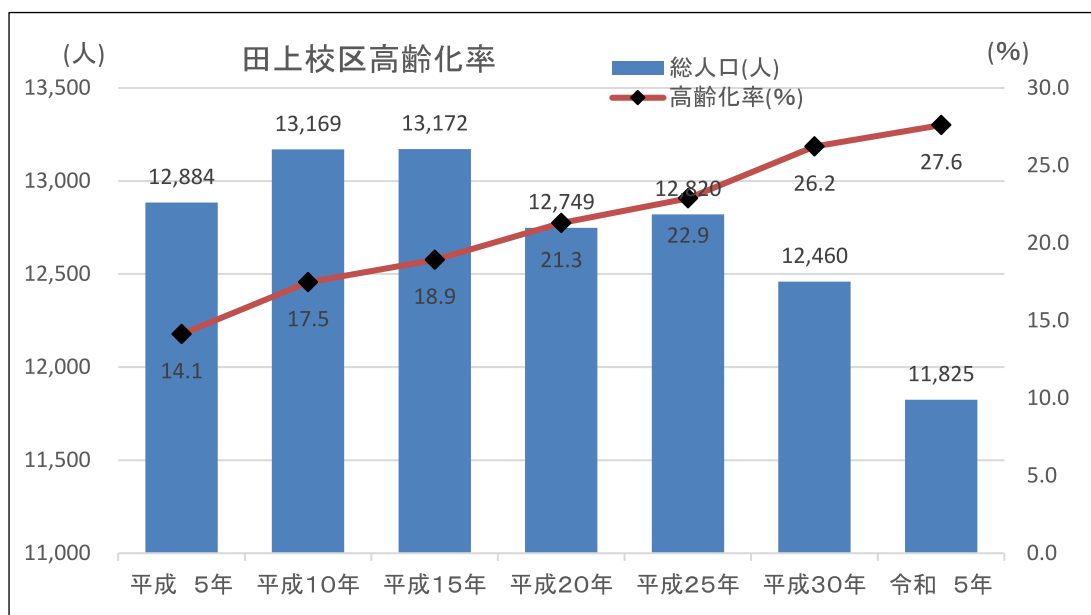


校区の人口を、平成5年度と令和5年度の年齢層別に比較してみると、29歳までの若い年齢層での人口の減少が大きいことが分かります。また、高齢者層（65歳以上）を見てみると、若い年齢層の減少に比べて増加しており、田上校区においても少子高齢化が進行していると思われます。

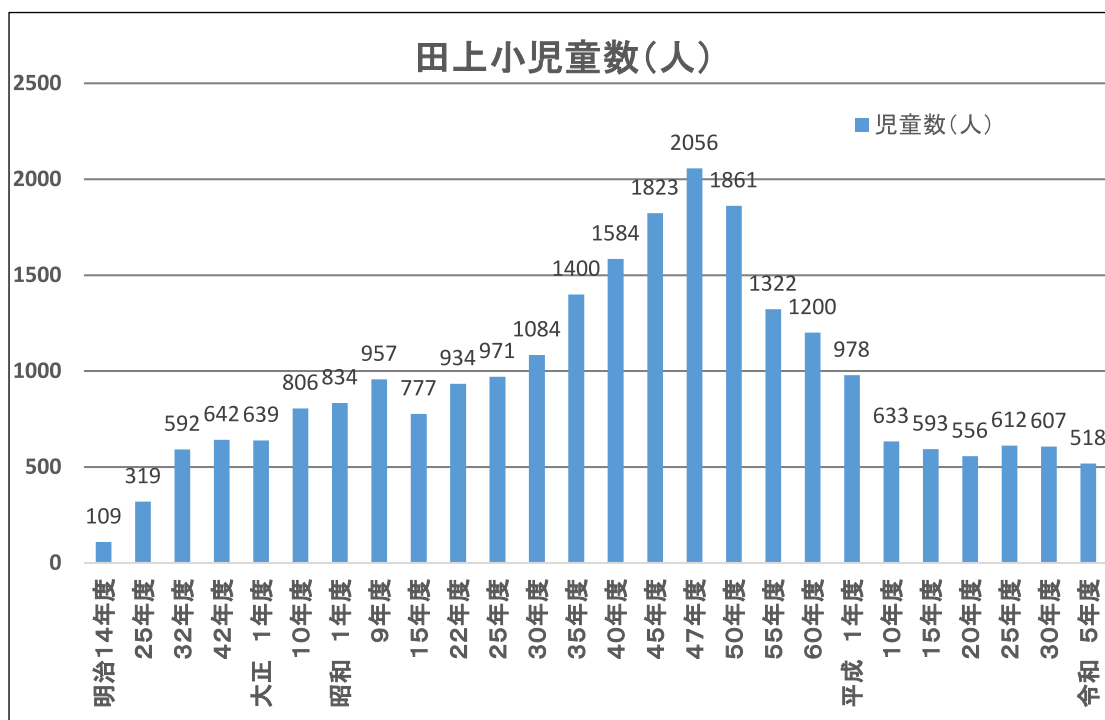


校区の高齢化率（人口に対する65歳以上の人口の割合）の推移を見てみると、平成5年度においては14.1％であった割合が、令和5年度には、人口の減少とともにその割合は27.6パーセントになっています。

総人口は減少し、高齢化率が上昇している現状が伺えます。



明治9年の創設の田上小学校は伝統ある学校で、当初は100人前後の学校でありましたが、昭和47年度には、2千人を越える大規模校となっています。その後、広木地区が広木小学校へ、西郷団地が西陵小学校へ分離し児童数は減少しました。平成になると、600人前後で推移していましたが、令和になり500人前後へと減少しています。



3 わたしたちがこれから目指すのは

(1) 協議会の運営

まちづくりのスローガン（目標）

● **心ひびきあい きずな深まる田上校区** ●

そのために

○住民みんなが主体と
なったまちづくり

○夢や希望を持ち、楽
しく生活し続けるこ
とのできる個性豊か
なまちづくり

○自助・共助によるま
ちづくり

○みんなで創る校区を基
本にしたまちづくり

○構成団体との連携・
協力を図った効率的
なまちづくり

○まちづくりの情報を
共有し、諸活動への参
加意識を高めるまち
づくり

田
上
校
区
ま
ち
づ
く
り
協
議
会

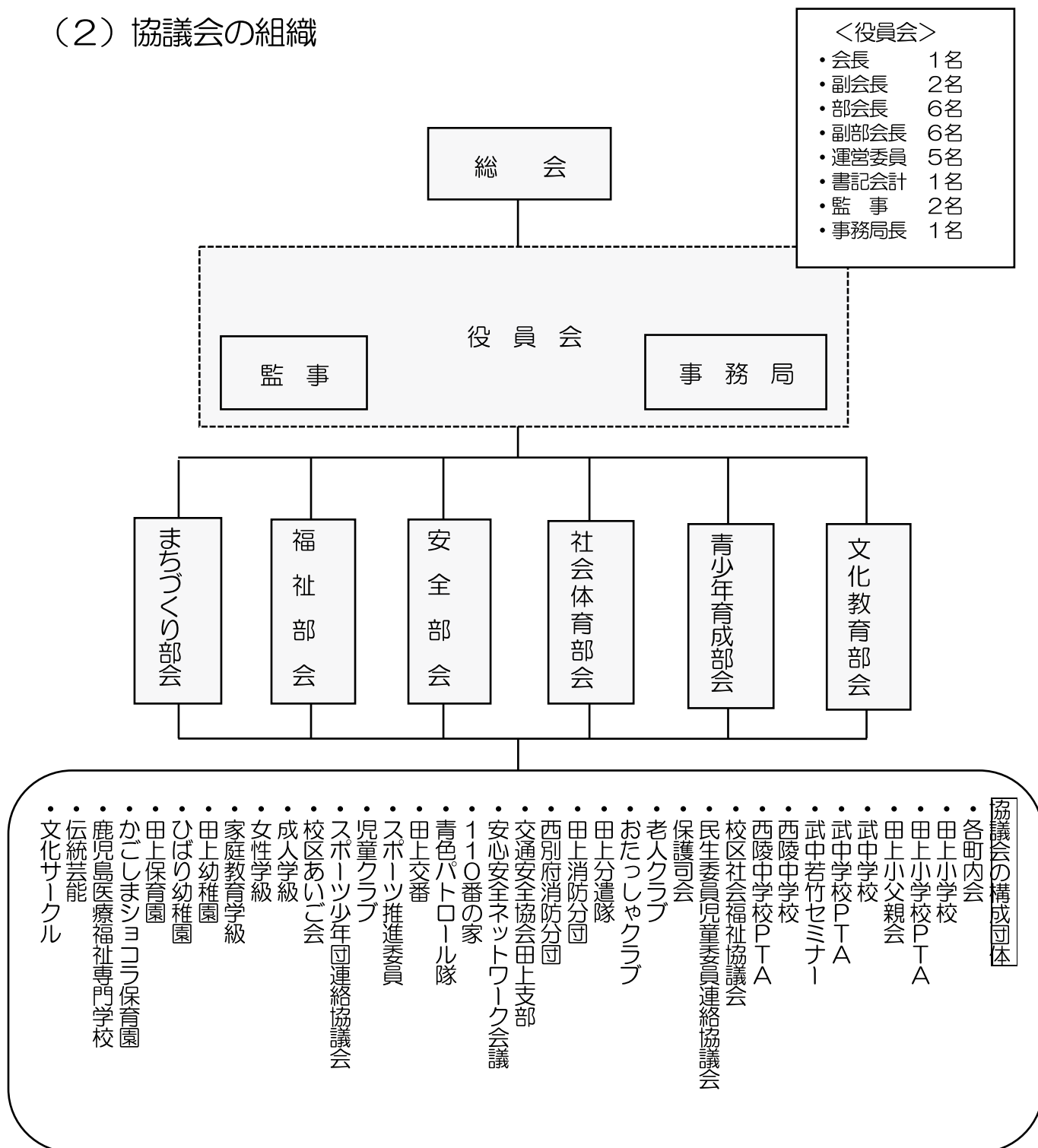


「おはら祭り」参加の子どもたち



防災防火訓練

(2) 協議会の組織



- ＜役員会＞
- ・会長 1名
 - ・副会長 2名
 - ・部会長 6名
 - ・副部会長 6名
 - ・運営委員 5名
 - ・書記会計 1名
 - ・監 事 2名
 - ・事務局長 1名



4 第1期プラン評価と第2期プラン活動計画

【まちづくり部会】プラン活動評価（I期5年：令和2年度～6年度）

番号	事業名	活動評価（年度）					総評	改廃	成果と課題
		2	3	4	5	6			
1	町内会加入運動	A	B	A	A	A	B	継続	未加入世帯への訪問ツールとしてタオルをR4より作成。R5より各町内会の総務担当者が集う「まちづくり研修会」を開催し、情報交換を行っている。
2	校区一斉清掃	A	A	A	A	A	A	継続	クリーンシティが8月開催のため、年末クリーン作戦はR3より青少年育成部会が担う事とした。町内会単位で積極的に実施している。
3	市民あいさつ運動	A	A	A	A	A	A	継続	「田上あいさつ運動」として学期はじめの登校指導期間に合わせて、年3回実施している。告知ポスター・チラシも作成し、校区内への周知も行っている。
4	広報紙の発行	A	A	A	A	A	A	継続	年2回の発行を目指し、制作しており、6年度末で第10号の発刊となる。今後は、構成団体の紹介等も行い、より広く関心を高める広報紙を目指す。
	田上交流会 (田上を語る会)	—	—	—	A	A	A	新規	令和元年まで開催していた「田上を語る会」を、一部規模の縮小をし、R5より新たに「田上交流会」として開催できた。

評価基準 A：よくできた B：概ねできた C：できた D：ややできなかった
E：できなかった （実施中止となった事業は「—」で表記）



【まちづくり部会】プラン活動計画（Ⅱ期5年：令和7年度～11年度）

番号	基本方針	事業名	事業効果	事業内容	実施時期
1	地域住民の共生・協働による活力あるまちづくり	町内会加入運動	町内会加入者を増やし、身近な結いの活動を活性化させ、明るく住みやすい町づくりができる。	未加入世帯への働きかけ まちづくり研修会の開催	通年
2		校区一斉清掃	「クリーンシティかごしまの日（8月）」に合わせ校区一斉清掃を行い、町内会活動の活性化やふれあい・連帯感を培う。	各町内会清掃活動	8月上旬
3		田上あいさつ運動	あいさつを通して、住民同士のふれあいや交流が育まれる。	啓発ポスター掲示 街頭立哨	年3回 学期はじめ
4		広報紙の発行	まちづくり協議会のねらいや運営の状況を情報発信することにより、地域づくりへの理解と関心を高める。	事業報告 地域の歴史 構成団体案内 など	年2回
5		田上交流会（田上を語る会）	協議会役員を中心に子どもたちに関わる関係者との交流を深め、地域の結束を図る。	関係団体との情報交換	2月頃



【福祉部会】プラン活動評価（Ⅰ期5年：令和2年度～6年度）

番号	事業名	活動評価（年度）					総評	改廃	成果と課題
		2	3	4	5	6			
5	町内会長・民生委員の交流会	C	A	A	A	A	A	継続	校区社協と連携し、毎年実施してきている。町内会と民生委員の繋ぎ役として今後も充実した交流会を目指す。
6	見守り体制の確立活動	C	A	A	A	A	A	継続	民生委員を中心となり、町内会単位で取り組んでいる。個人情報の問題もあり、活動が困難な場合もあるが、校区行事などを交流の場として活用することを呼びかけていきたい。
7	敬老会	C	A	A	A	A	A	継続	コロナ禍により、一部内容は見直しつつ、それぞれの町内会の実情にあわせたやり方で、対象者にお祝いを届けることができています。
8	児童高齢者ふれあい活動	—	—	—	—	—	—	継続	感染症等の懸念が払拭できず、具体的な行事として計画できなかったが、地域行事を通して、児童と高齢者が集う機会を支援していく。プランとして残し時期を見て計画していく。
9	子育てサロン	—	A	A	A	A	A	継続	昨年、設立20周年を迎え、記念イベントを実施した。今後も地域での子育てを活性化する取り組みを進めていきたい。
10	社協出前講座	A	A	A	A	A	A	継続	R3より町内会公民館に出向き、福祉講座を実施してきている。町内会の規模や位置によって福祉サービスの差がある中で、情報提供の場として、今後も実施していく。
11	校区運動会	/	/	/	/	/	/	/	社会体育部会が主体となる事業なので、プラン番号を整理し、社会体育部会にて評価する。
12	ボランティア講座	A	A	A	A	A	A	継続	様々な福祉課題について学ぶ機会をとしての講座を開催してきている。R6は「子どもボランティア講座」として、児童クラブで講座を開催できた。今後も様々な年代に福祉について学ぶ機会を提供していきたい。

評価基準 A：よくできた B：概ねできた C：できた D：ややできなかった
E：できなかった（実施中止となった事業は「—」で表記）



【福祉部会】プラン活動計画（Ⅱ期5年：令和7年度～11年度）

番号	基本方針	事業名	事業効果	事業内容	実施時期
6	住民みんながやっつけあふ社会をつくるために、まちを元気にする	町内会長・民生委員の交流会	福祉に関する状況を共通理解することにより、安心・安全に暮らせる状況を組織的につくられる。	民生委員との連携強化研修会の開催	年1回
7		見守り体制の確立活動	高齢者との声かけふれあいをおして非常時への対応など、支えあふ地域づくりが推進される。	見守り活動 地域パトロール 高齢者サロン開催 など	通年
8		敬老会	長寿の祝福や記念品授与により、今後の生きがいづくり、地域づくりへの積極的参加が期待できる。	敬老の日に合わせた交流会や記念品の授与 など	敬老の日
9		児童高齢者ふれあい活動	児童と高齢者が一同に介しふれあい活動を行うことにより、子どもたちの地域活動の参加が期待できる。	校区運動会、校区文化祭歩こう会、など地域行事への支援	通年
10		子育てサロン	交流会等の実施により、子育ての悩みの相談や情報を取得でき、地域で安心して子育てやふれあい活動ができる。	折り紙あそび、親子あそび、読み聞かせ など	年10回
11		社協出前講座	各町内会などに出向き、福祉に関する情報を共通理解することにより、安心して暮らせる状況がつけられる。	各町内会にて講座開催	年1回
12		ボランティア講座	介護の基礎知識や技能の修得により、高齢者の支援や安心して生活できる地域社会づくりに寄与できる。	福祉に関する講座の開催	年1回



【安全部会】プラン活動評価（Ⅰ期5年：令和2年度～6年度）

番号	事業名	活動評価（年度）					総評	改廃	成果と課題
		2	3	4	5	6			
13	通学路災害危険箇所点検	C	B	B	D	A	B	継続	関係団体の協力を得て通学路・災害危険箇所の図上点検「ハザードマップづくり」を子どもたちと実施することができた。実地研修を含めて今後も連携を深めていく。
14	防災訓練	D	D	D	A	A	A	継続	コロナ禍もあり、全体での訓練は実施できなかったが、町内会単位で実施できたところもあった。R6は上区以北の合同防災訓練を実施。世帯数の少ない地域が協力した訓練は効果的であった。「防災散歩」など、参加しやすい活動も今後は検討していきたい。
15	防犯パトロール	A	A	A	A	A	A	継続	安全モニターによる定期パトロールや青パトでの下校時の見守り活動を継続的に実施できた。また、各町内会でも夜間パトロールを定期的に実施している。
16	年末パトロール	B	B	B	C	A	A	継続	安全モニターによる合同パトロール実施のうえ、町内会単位でも実施できている。
17	ネットワーク会議	B	B	A	A	A	A	継続	年2回のうち、1回は講話を企画し、2回目は広報紙を発行し、安心安全を呼びかけている。今後は参加者を増やす工夫を図っていく。
18	高齢者安全スクール（ナイトスクール）	A	A	A	A	A	A	継続	ナイトスクールは交通安全協会の呼び掛けで他校区と合同で開催しているため不定期の開催となっている。高齢者サロンなどでの交通安全教室を継続的に開催している。
19	交通安全運動	B	B	A	A	A	A	継続	交通安全協会と連携して、安全運動期間中に安全旗の掲示や青パトでの広報を実施した。合同会議を充実させ、交通安全ポスターコンクールを開催し、交通安全意識向上を図っている。
20	交通安全チョコっと作戦	—	—	A	A	A	A	継続	長年継続している交通安全キャンペーンで、中止せざるを得ない時期もあった。ドライバーをはじめ、報道の効果もあり注目度の高い運動となった。今後も継続していきたい。
21	朝の立哨活動	E	E	C	E	B	B	継続	安全部としては実施できなかったが、田上あいさつ運動や、学校参観週間の立哨活動など、多方面で実施してもらっている。今後は安全部として活動できる人員を確保していきたい。

評価基準 A：よくできた B：概ねできた C：できた D：ややできなかった
E：できなかった（実施中止となった事業は「—」で表記）



【安全部会】プラン活動計画（Ⅱ期5年：令和7年度～11年度）

番号	基本方針	事業名	事業効果	事業内容	実施時期
13	地域住民みんなが安心して暮らせるまちづくり	通学路災害危険箇所点検	子どもたちと共に通学路の安全点検を実施することにより、子ども目線に沿った危険箇所が理解できる。	校区通学路の安全点検（児童同伴）	年1回
14		防災訓練	災害時の対応や防災に関する知識を養うとともに、災害時に自助・共助に沿った活用を期待できる。	実技訓練、講話 など	年1回
15		防犯パトロール	パトロールや声かけによって、犯罪の未然防止や青少年への声かけによって、地域の安心感が高められる。	・青色防犯パトロール ・声かけ	通年
16		年末パトロール	犯罪が起こりやすい年末にパトロールを集中しておこなうことにより、安心したまちづくりに寄与できる。	・防犯パトロール ・声かけ	12月
17		ネットワーク会議	関係団体の連携により、相互理解が深められ、校区の安心・安全がより深められる。	・関係団体の情報交換 ・ネットワーク会議情報の発信（広報紙）	年2回
18		高齢者安全スクール（ナイトスクール）	高齢者を対象とした交通教室を夜間に実施することにより、交通事故の可能性や防止方法がより具体的に理解できる。	・ナイトスクール（夜間交通安全教室）の開催 ・交通安全教室の開催	年1回
19		交通安全運動	全国交通安全運動にあわせ立哨活動やパトロールを実施することにより交通安全に対する意識の高揚が図られる。	・運動の周知活動 ・校区内の立哨活動 ・交通安全ポスターコンクールの開催	通年
20		交通安全チョコっと作戦	交通安全キャンペーンを実施することにより、交通安全に対する意識向上を図る。	鹿児島医療福祉専門学校と共同で交通安全キャンペーンを実施	2月
21		朝の立哨活動	登校時間に合わせ登校の安全指導を実施することにより、児童の安全確保と安全に対する意識が高められる。	・登校時間の立哨指導 ・声かけ	通年



【社会体育部会】プラン活動評価（Ⅰ期5年：令和2年度～6年度）

番号	事業名	活動評価（年度）					総評	改廃	成果と課題
		2	3	4	5	6			
11	校区運動会	—	—	—	—	A	A	継続	R2～R4 はコロナ禍のため中止、R5 は台風の影響により中止。競技内容を検討しつつ、あらゆる世代の方々が参加できる運動会を目指す。また、熱中症対策として開催時期を適宜検討していく。
22	武・田上地域 体育大会	—	A	A	A	A	A	継続	（グラウンドゴルフ大会） 毎年楽しみしている参加者が多く、地域の健康づくりの一端を担っている。
		—	—	—	A	A	A	継続	（ソフトボール・ソフトバレーボール大会） R2～R4 はコロナ禍のため中止。R5 より開催したが、選手不足が課題である。
23	ソフトバレー・ バレーボール 大会	—	—	—	A	A	A	継続	R2～R4 はコロナ禍のため中止。R5 より開催したが、選手不足によりチーム編成が難しくなっているため、工夫が必要である。
24	校区 ソフトボール 大会	—	—	B	—	A	A	継続	R2～R3 はコロナ禍により中止。R4 は開催できた。R5 は雨天中止。参加者減のなか、混成チーム等での対応を進めていく。
25	校区グラウンド ゴルフ大会	A	—	—	A	—	A	継続	屋外競技のため、天候が良ければコロナ禍でも開催できた。異年齢交流の場として開催を続けていきたい。
26	参加しやすい 行事の検討 （歩こう会）	A	A	/	/	/	/	/	アンケート調査より、参加しやすい行事として歩こう会を企画し実施した。R4 より青少年育成部会に移管した。（評価は青少年育成）

評価基準 A：よくできた B：概ねできた C：できた D：ややできなかった
E：できなかった（実施中止となった事業は「—」で表記）



番号	基本方針	事業名	事業効果	事業内容	実施時期
22	住民の親睦と健康の保持増進につながるまちづくり	校区運動会	幼児から高齢者までが多数参加し、競技をとおして校区民の交流と地域の活性化が期待できる。	・実施に向けた実行委員会等の開催（3回） ・年代に応じた競技	11月
23		武・田上地域体育大会	武田上地域の住民が集い、お互いの連帯意識、ふれあいと親睦が図られる。	・グラウンドゴルフ	5月
				・スローピッチソフトボール ・ソフトバレーボール	10月
24		ソフトバレー・バレーボール大会	校区の住民が集い、お互いの連帯意識、ふれあいと親睦が図られる。	・ソフトバレーボール ・バレーボール	6月
25		校区ソフトボール大会	校区の住民が集い、健康増進やお互いの親睦、ふれあいが図られ、地域の活性化が図られる。	スローピッチソフトボール	10月
26		校区グラウンドゴルフ大会	校区の住民が集い、健康増進やお互いの親睦、ふれあいが図られ、地域の活性化が図られる。	グラウンドゴルフ	2月



【青少年育成部会】プラン活動評価（Ⅰ期5年：令和2年度～6年度）

番号	事業名	活動評価（年度）					総評	改廃	成果と課題
		2	3	4	5	6			
26	参加しやすい行事の検討（歩こう会）	A	A	A	A	A	A	継続	R4より社会体育部会から青少年育成部会に移管した事業。参加しやすい行事として定着しつつある。
27	あいごスポーツ大会	—	—	—	A	A	A	継続	コロナ禍により以前と比べると参加者は少なくなっているが合同チームの編成などできる範囲での活動がすすめられている。
28	ブロックあいごスポーツ大会	—	—	—	A	A	A	継続	コロナ禍で実施できない時期があったが、R5から開催され参加できている。
29	校区あさひこ夏祭り	—	—	—	—	—	—	継続	コロナ禍で実施できていない間に、協力関係が希薄になってきている。内容を協議し実施に向けて各団体と連携を図り安全で円滑な運営をめざす。
30	あいさつ運動・ラジオ体操	—	D	A	A	A	A	継続	町内会と地区PTAが協力して無理のない範囲での実施をすすめている。
31	校区一斉清掃（少年団年末クリーン作戦）	C	A	A	A	A	A	継続	クリーンシティが8月開催のため、年末クリーン作戦はR3より当部会が担っている。（プラン2と31入替）少年団を中心に、町内会やあいご会も賛同し、活動している。
32	西郷どんの遠行	—	—	—	A	A	A	継続	コロナ禍により中止が続いた。R5は小学校運動会前日だったので、成人学級のみが参加した。今後も積極的に参加していく。
33	青少年を育てる運動	—	A	A	A	A	A	継続	ゴミステーション標語コンクールや子育てサロンロゴ募集など、コロナ禍でも出来る活動を進めてきた。防火教室では多くの子どもたちが参加するなど、地域ぐるみの活動を行うことができた。
34	補導・交通安全指導	A	B	A	A	A	A	継続	PTAを中心に補導活動が実施できている。また学校参観週間では多くの校区有志の方々による見守り活動が実施されている。
35	立志のつどい	B	A	A	A	A	A	継続	コロナ禍により、集う事が懸念されたが、文集を作成し、立志を祝う地域の思いを届けてきた。今後も学校や地域の方々のご協力を仰ぎ、文集形式で祝う思いをかたちに残していきたい。
36	青少年育成大会	—	—	A	A	A	A	継続	各種あいご会の研修活動へ参加することができた。武・田上地域ユースドリームフェスティバルにも積極的に参加し成果を出している。
37	声かけ・校外補導	A						統合	PTAが中心となり活動。事業内容が同じなので、R3よりプラン34と統合
新	おはら祭り参加				A	A	A	新規	夏祭りなどが開催できなかった代わりにR5よりおはら祭りに参加した。異年齢交流の機会として今後も継続していきたい。

評価基準 A：よくできた B：概ねできた C：できた D：ややできなかった E：できなかった（実施中止事業は「—」で表記）



【青少年育成部会】プラン活動計画（Ⅱ期5年：令和7年度～11年度）

番号	基本方針	事業名	事業効果	事業内容	実施時期
27	次世代を担う青少年を守り育てまわす	田上川 新春歩こう会	地域に居住する様々な年代の方々が気軽に参加でき、交流を深められる。	ウォーキング大会	1月
28		あいごスポーツ大会	地域ぐるみであいご会組織の充実を図るとともに、活動の充実と子どもたちの健全育成が図られる。	・ドッジボール大会 ・グラウンドゴルフ大会 など	9月
29		ブロック あいごスポーツ大会	近隣のあいご会組織との交流を図り、あいご会活動の充実が図られる。	・ドッジボール大会 など	年1回
30		田上ふれあい 夏祭り	幼保小中、地域団体総ぐるみで夏祭りを開催し、校区民が楽しく集うことで、地域の思い出がつけられる。	・出店 ・ステージ発表会 等	8月
31		あいさつ運動・ ラジオ体操	近隣住民とのあいさつでコミュニケーションが育まれ、地域の一員としての自覚をもつことができる。	・夏休みラジオ体操	8月
32		少年団 年末クリーン作戦	地域住民が参加することにより、住民の交流（世代間）図られ、絆が深まり、地域づくりが図られる。	・町内会ごと清掃 ・ふれあい活動 ・あいご・少年団清掃	12月
33		西郷どんの遠行	西郷隆盛の偉業やゆかりの史跡をめぐることにより、先人の偉業に思いをはせ、豊かな生き方を学ぶことができる。	・遠行（スタンプラリー）	11月
34		青少年を育てる運動	地域の様々な組織の連携により、地域ぐるみで子どもたちを見守り、育てる活動が推進される。	・標語の作成 ・あいご講座など連携による事業	9月
35		補導・ 交通安全指導	交通事故防止の安全対策を行うことで、地域の安心・安全推進につながる事が期待できる。	・補導、立哨指導 ・声かけ	通年
36		文集「立志」 の作成	中学2年生の立志（満14歳）を地域で祝う気持ちを込めて文集を作成することで、これからの人生に新たな目標と決意を持つことができる。	・思い出の写真 ・お祝いのメッセージ ・将来の夢・抱負	2月
37		校区外団体との 連携活動	青少年育成に関する校区外の関係団体と連携し、活動を通して交流を深める。	・武・田上地域ユースドリ ームフェスティバル ・地域連絡会参加	1月
38		おはら祭り参加	子どもから高齢者まで、あらゆる世代の校区民が一同に参加することで、地域の絆を深める。	・練習会の設定（4回） ・おはら祭り参加	9月～ 11月



【文化教育部会】プラン活動評価（Ⅰ期5年：令和2年度～6年度）

番号	事業名	活動評価（年度）					総評	改廃	成果と課題
		2	3	4	5	6			
38	社会学級 (成人学級・女性学級)	C	A	A	A	A	A	継続	各学級の実情に合った学習活動が実施できている。今後も継続して学習の場を提供していきたい。
39	家庭教育学級	—	A	—	A	A	A	継続	毎年、学級生の入れ替わりがあるが、実情に応じた学習活動が進められている。
40	山学校 (社会学級合同)	E	A	—	A	A	A	継続	コロナ禍で実施内容を協議しながら、清掃活動を中心とした開催を続けている。次世代に伝える責任を念頭に置きながら、各団体と連携して実施していきたい。
41	学校支援 ボランティア 活動	C	A	A	A	A	A	継続	様々な学校支援に、ボランティア登録された方々が、活躍されている。今後も、地域一体となって学校支援に取り組みたい。
42	校区文化祭	—	—	—	A	A	A	継続	コロナ禍で実施できない時期があったが、R5より舞台発表のみの開催となった。従来の文化祭の持つ意義を再認識し継承する一方、時代の変化にも柔軟に対応しながら、継続して開催していきたい。
43	武・田上 地域文化祭	—	—	A	A	A	A	継続	コロナ禍で実施できない時期があったが、武・田上地域が協力し合って、開催をし続けている。今後も積極的に参加していきたい。

評価基準 A：よくできた B：概ねできた C：できた D：ややできなかった
E：できなかった（実施中止となった事業は「—」で表記）



【文化教育部会】プラン活動計画（Ⅱ期5年：令和7年度～11年度）

番号	基本方針	事業名	事業効果	事業内容	実施時期
39	住民みんながついて、学び楽しむ実感をみんなもちたい	社会学級 (成人学級・女性学級)	社会人としての知識を学ぶことにより、良き地域人・社会人として、住み良い地域づくりへの参加が期待できる。	・各講座 ・人権研修 ・視察研修 等	通年
40		家庭教育学級	PTAの一員として、教育の問題や課題を学ぶことで豊かな生き方、家庭人、地域人としての活躍が期待できる。	・研修視察 ・体験活動 ・人権研修	通年
41		山学校 (社会学級合同)	校区と先人の関係を知るとともに、校区の一員としてふるさとの文化や伝統を継承する心を育むことができる。	・先人の偉業学習 ・講話 ・公園清掃	6月
42		学校支援 ボランティア活動	学校支援を目的に、これまでの技能や知識を学校教育に活かすことができ、共に学ぶ地域づくりが育成される。	・学校教育活動への協力	通年
43		校区文化祭	校区住民の学習や活動の成果を発表することで、生きがいづくりや校区文化の発展に寄与することができる。	・舞台発表 ・作品展示	10月
44		武・田上 地域文化祭	武田上地域の学習や活動の成果を発表することで、地域住民のふれあいや地域文化の発展に寄与することができる。	・作品展示 ・舞台発表 ・活動成果発表	1月



プラン策定委員会

役 職 名	委 員 名	備 考
委 員 長	藤久保 博文	まちづくり協議会会長
副委員長	久保 正和	まちづくり協議会副会長
委 員	垂野 博行	まちづくり協議会まちづくり部会長
//	宮元 利典	まちづくり協議会福祉部会長
//	瀬戸山 満	まちづくり協議会安全部会長
//	川路 博一	まちづくり協議会体育部会長
//	徳永 真輔	まちづくり協議会青少年育成部会長
//	中元 克明	まちづくり協議会文化教育部会長

2025年3月31日 作成

田上校区まちづくり協議会

事務局 鹿児島市田上5丁目12番1号
(田上校区公民館内)

TEL・FAX (099)204-0242

メール tagami-machizukuri@po5.synapse.ne.jp